

土の粒度試験 (JIS A 1204)

土は大小様々な粒（土粒子）で構成されており、その構成状態を調べるのが粒度試験です。粒度とは、土に含まれる土粒子の粒径ごとの含有量を質量百分率で表したもので、これを把握する事によってその土の材料特性等を推定することができます。

試験方法

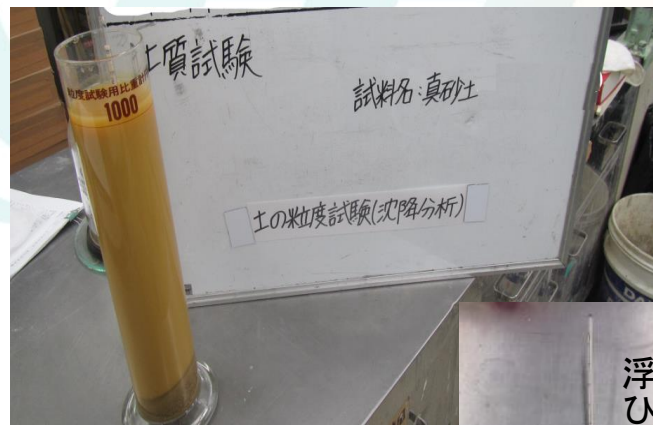
試験方法は、JIS A 1204「土の粒度試験方法」に規定されています。地盤材料は石分(75mm以上)、レキ分(75mm～2mm)、砂分(2mm～0.075mm)、細粒分(0.075mm未満)で構成されていますが、対象とするのは石分を含まない材料です。石分を含む材料については「石分を含む地盤材料の粒度試験方法」を適用します。粒度の測定方法は2種類あり、0.075mm以上はふるいによる分別と質量測定（ふるい分析）、0.075mm未満は浮ひょう（比重計）を使って粒度とその質量を換算します（沈降分析）。沈降分析を行わずに細粒分の総量を求める方法（土の細粒分含有率試験）もあります。

結果の利用

試験結果は、地盤材料の工学的分類のために不可欠な指標です。また、土の締固め特性や透水性および液状化強度などの物理性質の推定、建設材料としての適性の判定や、掘削工・基礎工などの土木施工法の選定にも利用されています。



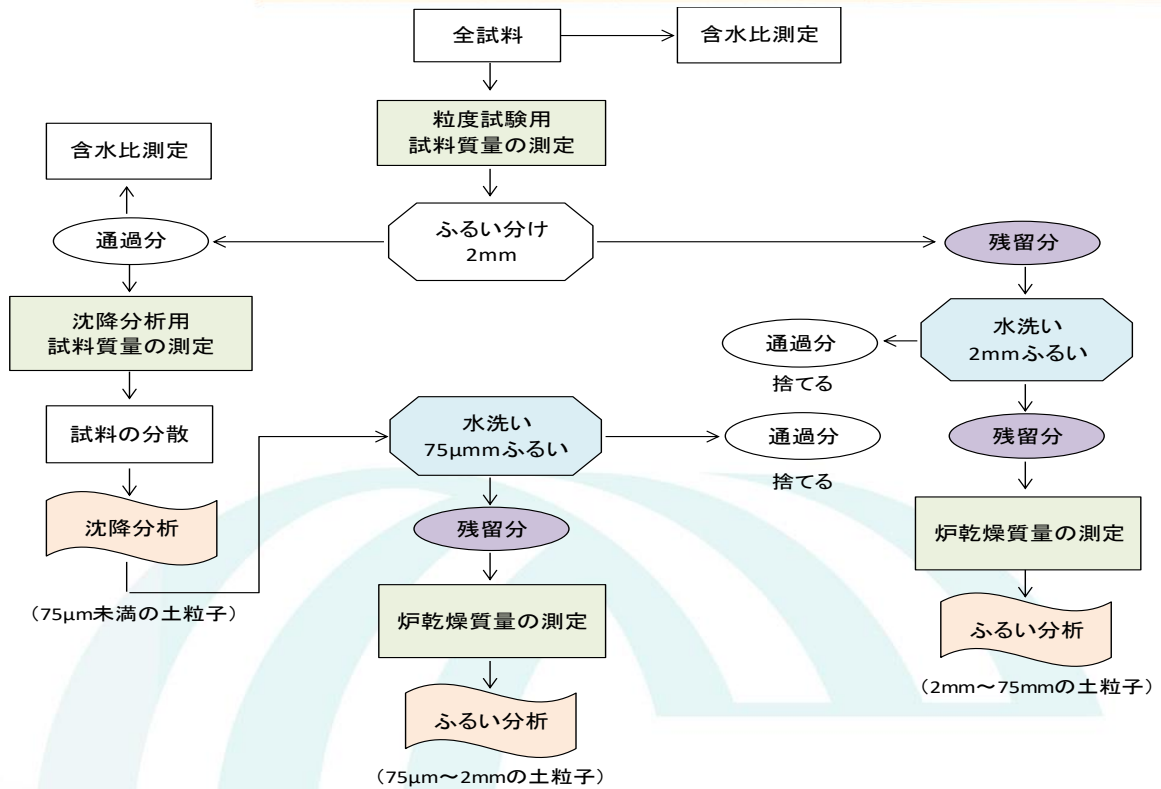
ふるい分析実施状況



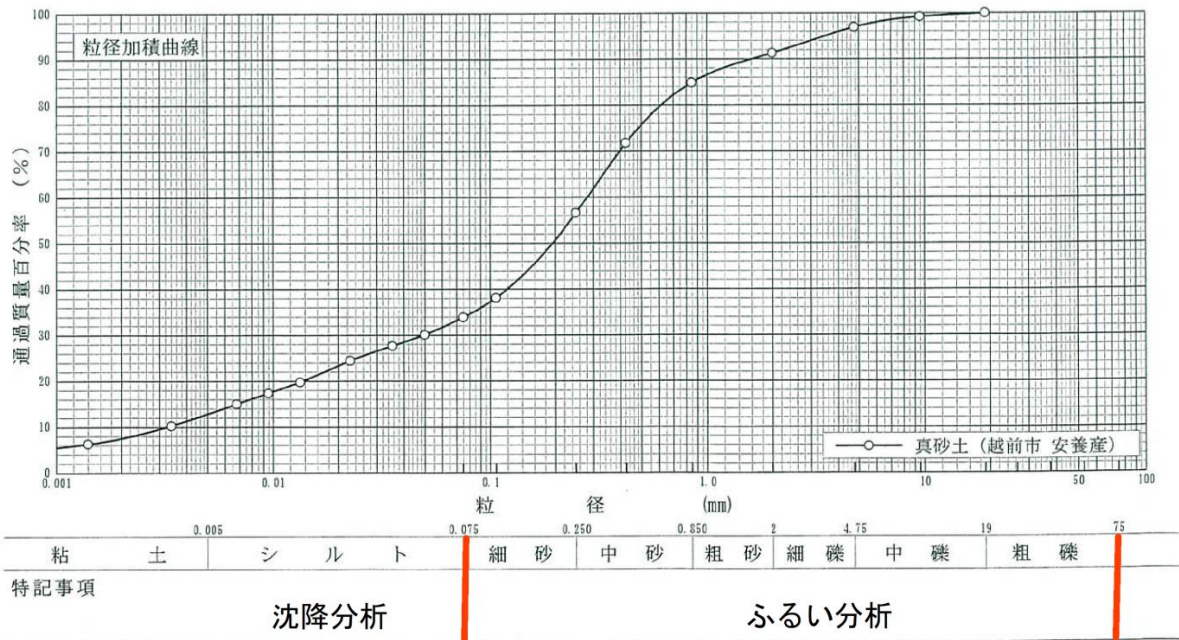
沈降分析実施状況



地盤



土の粒度試験手順フロー



分類：礫まじり細粒分質砂

粒径加積曲線(例)